

# 旬じょうはん

情勢判断学会 東京本部  
会員向けニューズレター  
発行人 古川 彰久  
事務局 〒252-0321 神奈川県  
相模原市南区相模台1-23-9  
Tel.&Fax.  
042-748-8240  
<http://www.jouhan.com>  
E-mail:info@iki2life.com

## 2月例会ご案内

日時 : 2月10日 木曜日  
18:30 ~ 20:30  
場所 : 港区立商工会館  
参加費 : 1000円  
テーマ : 1. 城野先生の「状況判断の行動学」  
の第四章(4)日本経済と高度成長の  
後半  
2. 今後の展開について  
演者 : 松本 友

第四章全体のテーマは「ケーススタディとしての偉大な日本経済」です。この偉大な日本経済というのは、1979年時点でまとめられているのでいわゆる高度経済成長時代のものになります。前回は最後まで行かなかったので今回もその続きとなります。

引き続き、日本においてなぜこんな経済の発展が実現できたのかというのがテーマです。

他国の例を見ると、だいたい自国の豊富な資源をどうやって活用し、そこからどれだけ多くの外資を得るかを考えて発展戦略達成の戦術を組むことが多いそうです。でも日本は違う。資源もなく、日本だけに(?)二本の腕以外に頼るものがないという現実を直視し、外資を得るわけにも行かず一步一步やり遂げて行った。結果、この方法が大きな効果をもたらしたとのこと。

資源がないなら国外から得よう、と最も良質で安価なものを大量に供給してもらえるように組み立てる。海から運ばれるものは海岸で受け取り、海岸沿いに工業地帯を作り、船から工場、また船、といった最短距離で最低運賃にて全世界とつながるルートを作る。地球的規模で資源を購入して作ったものを売るルートを開発した。そのお金は銀行や保険、郵便貯金と税金をまとめて大きな資本にして基幹産業を建設、供給を実現していったのです。

日本人として嬉しいな、と思うのは創造性に関するところです。良く真似はうまいが創造性がない、と言われることも多いですし当の日本人もそう思っているところがあります。が、城野さんは日本こそ、世界人類史に例のない経済組織を作り、無資源、無資本、無外資という悪条件を見事に最良条件に変化させてしまったというのはとても偉大な民族的創造的だと言います。その視点は日本人すら持っていません。どうして日本人自ら、創造性がないものと信じ込んでしまっているのでしょうか。もっと自信を持たなくては、と思います。

また、中小企業についても触れられています。日本ほど多数の中小企業を作り出し、旺盛な活動を行っている国は他にないとか。外国で働いた経験がないのでわかりませんが、そうだとすると中小企業の経営者として心強い話です。

あと面白いのが、会社の売上を何倍にもして懐にたっぷりお金を入れ込むことより、日本人は社会になにかの足跡を残すという人生のロマンを求めるほうが大きいと。高度成長もその、日本人がロマンを求める気持ちがあつたのも大きいと言うのです。そう言われてみればそうかもしれない。組織の中のひとり、名前が残るわけでもないのに自分のベスト以上を尽くし最善のものを作り出そうとする人々は多くいます。

日本こそが素晴らしい、と考える必要はないと思いますが、なんとなく元気のない日本、自信を失っているように思う日本。島国だから世界で勝てないよな、なんてしょげている場合じゃないな、と思います。高度成長の経験はないけれど、自分たちの「脳力」を信じ、存分に発揮できるように創造力を発揮して行くための学びを続けたいと思います。

# 1 2 月 例 会 報 告

日時 : 1 2 月 9 日 木曜日  
18 : 30 ~ 20 : 30  
場所 : 港区立商工会館  
テーマ : 城野先生の「状況判断の行動学」  
第四章 (3) 経済発展の戦略的評価より  
演者 : 松本 友

経済とは人間の実生活であり数字ではない。ただし、日本の高度成長を評価するとなると数字的側面を見る必要がある。高度成長の結果、公害が生まれ、福祉の側面では不足していることが言える。とは言え、死亡年齢は男性で 74 歳、女性で 79 歳と諸国の中でも随分と長寿である。明治時代の日本では 30 歳、戦前で 43 歳だったことを考えると明治からしたら倍以上ののびである。日本の高度成長は失敗だったのか。

そんなことから始まった今回の学びですが、高度成長という数字的な側面だけを見るのではなく、違った面を見てみると日本は医療の発達や医療機器の進歩などによって男女ともに平均寿命が急激に伸びるようになったようです。高度成長という経済だけの側面をみるだけでなく、こういった国民の健康であったり教育などの面も見べき必要があるのではないか、という考えを学びました。

同時に福祉環境の整った状況も、長寿国になっている要因の 1 つであると思います。経済だけの成長ではなく、経済を支えてきてくれた高齢の方が、安心して暮らせる国を築き上げている。

教育に関しても、全員が義務教育を受けて単一民族・単一言語を読み書きする日本人には他国と違い集団的な力が働いたのではないかと思います。基本的に字を読めない人がいない、という環境は相当に恵まれていると思いますし、生活、仕事、趣味、すべての面で生きていくのが楽ですし意思疎通もスムーズでありがたいことです。

それ以外にも環境衛生という面でも日本は今でも非常に優れていると実感しています。タバコのポイ捨てはなかなか無くなるもの、ごみ処理の問題であったり公害問題、落書き、トイレの綺麗さなどを考えても普段何気なく生活している環境面もとても素晴らしいと実感するのは海外旅行や生活をする日本と日本の良さがわかります。コロナ禍において、ごみの収集が行われなくて困った国の話等も入ってきました。そういうことがない仕組みを作り、実直に運営できているというのは日本の強みでもあると思います。

様々な議論が今回も行われましたが、城野さんがこの本を書いた時代と現代では、全く状況が変わって、経済という数字だけの側面でも日本は世界から遅れを取ってしまっています。正直、高度成長時代を経験していない自分からすると、そんな時代があったことすら不思議な気がします。その大きな差がどうしてついたのかという議論も出ましたが、次回に持ち越し。

日本の中の経済需要が回っていた時代と、現在のグローバル化が当たり前になっている世の中では、どのような基準を持ち どのように変更をしていかないといけないかということも考えていく必要があります。

ただ 経済だけが発展していれば良いのかということではなく、今回学んだ医療・福祉・公害・健康・教育などの全面情報を 1 つずつ見ていく必要があるのだと思います。

日本の遂げた経済成長は、同時に医療・福祉・公害対策・健康・教育の仕組みをしっかりと作り上げることでありました。その仕組みが整うことと、成長に何らかの関係性があったのだと思いますが、大枠の仕組みが整った今、諸国との差がつくのは仕方がないのか、それとも何か考えるべきことがあるのか、さらに深く考えていきたいと思っています。

